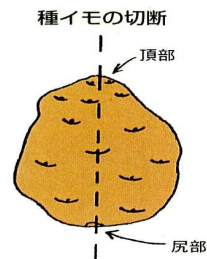


●野菜の作業

（※今月の生産者情報はお休みしました。）

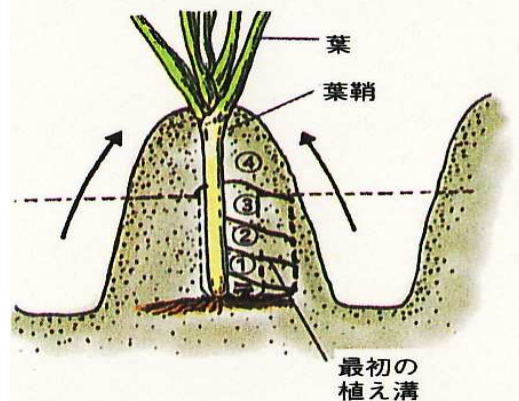
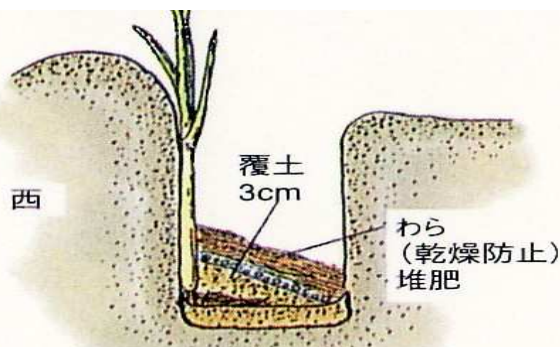
凍霜害の時期です。晩霜には気象情報を参考に万全を期しましょう！

種まき・育苗	定植（植付け）	栽培のポイント
播種 ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・ニラ ・チンゲンサイ ・エンドウ ・ダイコン(トン祢) ・スイートコーン ・カブ ・葉ネギ ・ゴボウ ・ニンジン	・レタス ・ジャガイモ ・ミョウガ ・ブロッコリー ・チンゲンサイ (3月播種の苗) ・ネギ	【ほ場の準備】 ・堆肥、土壌改良資材の散布（10㎡当り） 完熟堆肥 k g 20～30 k g、苦土石灰 1 k g、ヨウリン 500 g を定植 1ヶ月前までに施し、良く耕起しておく。 ・基肥の施用 野菜化成や B B 肥料などの基肥は作物によって施量が違ってきますが、は種（定植）作業の2週間前には施用して土に馴染ませておく。 ・マルチ張り 基肥を施用後土に水分があるうちに早めに張って地温を上げておきます。整地をしっかりとし、土とマルチが密着するように張る。地温上昇、雑草防止には黒マルチ、アブラムシ防除をかねてシルバーストライプマルチが効果的。 【バレイショの定植】 植付け前の2週間位、種イモを日があたる場所で日光に当ててやると発芽が早まる。（夜間は凍みないように保温してください。）植付け適期は、標高500mで4月上旬。（100m上がる毎に5日遅らせませす） ・施肥量：10㎡あたり堆肥20Kg 化成肥料1Kgを全面施用。 ・栽植密度：うね幅60cm×株間30cm。 ・種芋は頂芽を中心とし、縦割りし（出芽が揃う）30～50g程度のものを植える。切り口を日陰で乾かして植え付ける。
	収 穫 ・アスパラ ・ウド 保温資材をトンネルがけして霜予防。収穫は建築用の幅広ノミが便利。軟白ウドもよいが、葉が伸びたものも山ウド風で調理の幅が広がる。	



●白ネギ栽培のポイント

ネギは湿害に弱く、酸素不足になると腐敗する。また、酸性土壌を嫌うので苦土石灰を 2 k g / 1 0 m² 施用。溝切りは、定植前日か当日。降雨後湿った状態で行なうと垂直になり活着がよい。基肥は、ネギ専用肥料を使うと追肥の手間が省ける。基肥を植え溝に行なった場合は、直接根にあたらないよう間土する。土寄せは、首の付け根が埋まらないように3～4回に分けて行なう。





●栽培者の工夫あれこれ

武石地区下武石の小松敏悦さんは、春先の畝作りの時に、稲ワラを束のまま植え溝に入れて、ナスやトマトなどの果菜類を植付けし良好な生育をさせています。

植溝をできるだけ深く掘上げ、稲ワラを束のまま敷き並べます。その上に土をかけ、肥料を施用した場合はさらに間土し畝をつくります。

●作ってみては？ (～バラエティーに富んだ品揃えのために～)

NO.1

品 目	栽培のポイント
<p>ハナニラ</p> 	<p>ニラの1品種。葉ニラのとれにくい6～9月を中心にトウと幼花蕾を食べる。栽培はニラと同様で、4月に種まきし6月に定植する。種皮がかたく吸水しにくいので、水に1昼夜つけてまく。10～15cm間隔にスジまきし、発芽後は株間1～2cmになるように間引。うね幅50cm、株間20cmで1か所に5株ほどまとめて深植えにならないように植える。追肥は20～30日に1回の割に施す。翌年から収穫するが、一度播種するとあとは何年でも株分けによってふやせる。トウはやわらかく、歯ざわりと甘み・香り・栄養価にすぐれ、油炒めや、吸物、卵とじ、蕾を摘み取って漬物などに、幅広く利用できる。収穫は先端の苞が破れないうちに行う。(サカタのタネ資料より)</p>
<p>短根ゴボウ</p>  <p>品種：サラダむすめ</p>	<p>根長35～45cmの短根太ごぼうで、播種後100日程度で収穫できる超極早生種。白肌で鮮度がよく、ごぼう一般の料理、サラダに最適。作りやすいので、手軽にラクラクと栽培ができ、短根であるので、収穫も簡単。酸性に弱いのでpH6.5～7.0になるよう苦土石灰などで矯正する。耕土の深いところで、地下水が低く、排水のよいところを選ぶ。畝幅を60～70cmとり、1条のすじまき、または10cm間隔の点まきにする。超極早生種なので追肥が遅れないように注意する。(タキイ種苗資料より)</p>

質問コーナー

土壌改良のための肥料と使い方について教えてください。



農業豆知識

土壌改良のための肥料は、土壌分析をして不足分を補給するものです。主に石灰、リン酸加里、苦土の分析値に基づいて施用量を決めますが、次のような資材がつかわれます。

肥料名	保証成分	土壌への影響	備考
苦土石灰	石灰40%、く溶性苦土10%	アルカリ	石灰分の補給、土壌酸度の矯正に使用。苦土が含まれている。
サンライムプラス	アルカリ分49%、く溶性苦土10%、微量要素入り	アルカリ	カキ殻粉末。苦土を始め、ホウ素、鉄などの微量要素含む。
粒状マーグサム	硫酸カルシウム85%	酸性	土壌への影響が酸性なので、pHは高いが灰分が少ないときに使用できる。
ようりん	く溶性リン20%、く溶性苦土12～15%、く溶性珪酸20～26%、石灰分29%	アルカリ	りん鉱石と蛇紋岩から製造。りん酸、苦土、石灰、けい酸含む。土壌酸度の矯正にもつかえる。
ダブリン19	く溶性リン35%、く溶性苦土5%	中性	リン酸含量が多い。また水溶性リン酸が多いので、効きが早い。
有機加里	く溶性カリ30%、く溶性リン2%、く溶性苦土3%	アルカリ	パーマリンを原料。緩効性カリを含み肥効が持続する。

- 石灰、カリ、苦土資材の施用量 (10a、深さ10cmあたりkg)

$$\text{施用量} = (\text{目標値} - \text{分析値}) \div \text{投入資材の成分含量} (\%)$$
- リン酸資材の施用量 = (目標値 - 分析値) × リン酸吸収係数に応じて乗じる数値 ÷ 投入資材リン酸含量 (%)

$$\text{施用量} = (\text{目標値} - \text{分析値}) \times \text{リン酸吸収係数} \div \text{投入資材リン酸含量} (\%)$$

↳ (丸子の場合6とする)

資材の投入量を算出する場合は、それぞれの資材に複数の成分が含まれているのでそれらを計算して投入量を決めます。また、土壌のpHによって施用する資材を変えることも必要です。

サクラの花の塩漬
八重桜(7分咲)
100g、塩10g
白梅酢40cc、まぶし用の塩適宜

花は軸を付けたまま摘取り、水洗いし後陰干する。瀬戸引きの容器に塩をふってつけ込む。上から白梅酢をふり、更に桜の葉を一面に並べて重しをする。水があがったら取り出し2、3日陰干し、かわいたら塩をまぶしバラバラにし広口ビンに保管。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
櫻井主任企画員 (Tel.25-7157)